

県庁舎跡地の整備に向けた検討状況(交流・おもてなしの空間)について

1 県庁舎跡地活用の考え方の整理

(1) 県庁舎跡地活用の考え方 ～長崎奉行所(西役所)の地を現代に生かす～

県庁舎の跡地は、江戸時代には「長崎奉行所西役所」が建てられ、幕末には、西役所内に海軍伝習所が開設されるなど、国際交流の舞台となった重層的な歴史を持ち、長崎発祥の礎となった歴史的に重要な土地である。

そのため、県庁舎跡地という観点に留まらず、こうした歴史を踏まえながら活用を検討していく必要がある。

(2) 跡地活用における3つの方向性

- ◆多目的広場機能
 - ◆交流・おもてなし機能
 - ◆ホール機能
- } 整備に向けて具体的に検討を進める
- ・・・今後、適切な時期に判断する

※多目的広場については、9月定例会にて報告済み

※本資料では、交流・おもてなし機能について説明

2 交流・おもてなしの空間の具体的検討

(1) 整備の目的・考え方

- この土地は、岬の教会や奉行所、四代に渡る県庁舎など、国際交流の舞台となった重層的な歴史や、出島に近接し、陸の玄関口である長崎駅や、海の玄関口である長崎港と、まちなかをつなぐ中心に位置する地理的特性を持つ。
- こうした歴史等を踏まえ、来訪者に長崎への理解を深め、関心を高めてもらうため、歴史や観光などの情報を発信する。
- また、県民が気軽に利用できる活動の場となるとともに、国内外の観光客など多様な人々を迎え、交流を生み出すおもてなしの空間を整備し、賑わいの創出につなげる。

(2) 整備に関する検討の視点

視 点	機 能
<ul style="list-style-type: none"> ○この土地の歴史、県全体の観光、物産、世界遺産関係の情報について、どのような項目を中心に、どれくらいのボリュームで発信するか。 ○情報発信に際し、観光案内所や長崎歴史文化博物館、長崎県物産館などの既存施設とどのような連携が取れるか、また、役割分担をどのようにするか。 ○情報発信の手法として、現物を展示するのか、パネルで展示するのか、文献を紹介するのか、IT機器の活用も含め、どのように組み合わせて発信するのか。 ○クルーズ船観光客をはじめとするインバウンド客に対応する情報発信は、どのようなものが考えられるか。その際、クルーズ船観光客と他の外国人観光客でターゲットを別にした情報発信を行うことは、考えなくても良いか。 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">情報発信</div>
<ul style="list-style-type: none"> ○交流・活動の場としての交流スペースは、イベント中心のスペースとするのか、小規模の県民活用のスペースとするのか。また、規模感は、どれくらいにするか。 ○天候に左右されないイベントの開催をどの程度考えて、それに対応する施設とするか。 ○会議室を併設するとして、質の高い会議室とするか、通常レベルの会議室にするか。 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">交 流</div>
<ul style="list-style-type: none"> ○飲食・物販施設については、誰をターゲットに、どのような特色を持った施設とするか。また、既存周辺施設との機能分担や連携を図るには、どのようにするか。 ○飲食施設については、着席を主体とした施設にするのか、テイクアウトを含めたような施設にするのか、併設していずれかをメインとするのか。 ○物販施設については、一般的な物販施設にするのか、県の特産品等の限られたものを中心とするのか。 ○広場の利用者なども気軽に利用できる飲食施設が、必要でないか。 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">飲食・物販</div>
<ul style="list-style-type: none"> ○出島を展望するに際して、どのような視界を考えた視点場を想定するのか。高いところから俯瞰できるようにするのか、低いところから一部を見て雰囲気を感じる程度にするか。 ○視点場にどのような機能を持たせるか。広場から見せるのか、飲食施設から見せるのか、展望施設から見せるのか。 ○施設の外観は、長崎奉行所や出島、洋館群など、この土地の歴史や周辺の景観を踏まえたものとするか、あるいは斬新な未来志向で人を引き付けるデザインとするか。どのようなものが、この地の施設として相応しいか。 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">そ の 他 (展望、外観)</div>

(3) 交流・おもてなしの空間についての主な機能の分類

(2) 整備に関する検討の視点(前ページ)を踏まえ、県外参考事例の主な機能を整理した結果、以下の3つの機能に分類

	情報発信機能	交流機能	飲食・物販機能
内容	土地の歴史や、世界遺産などの地域の観光情報、地域産品などの物産情報を発信する	イベントの開催や、地域の交流活動などに活用できる交流スペースを提供する	話題性や独自性などの特色ある飲食、物販等を提供する
目的	得られた情報を活用し地域への理解を深めてもらうとともに、域内の観光地への訪問や、地域産品の周知・購入につなげる	イベント開催時は県内外から多くの人を訪れるとともに、地域の気軽な活動スペースとしても利用されることで、交流を促進し、賑わいを創出する	この地を訪れる目的となり得る飲食、物販の提供により、県内外から人を呼び込み、賑わいを創出する
県外参考事例	○	○	○
	《3つの機能を有する事例》 しいのき迎賓館(石川県金沢市) かごしま県民交流センター(鹿児島県鹿児島市) 青森県観光物産館アスパム(青森県青森市) 富岩運河環水公園(富山県富山市) コラッセふくしま(福島県福島市) 浅草文化観光センター(東京都台東区)		
	○		○
	《「情報発信機能」と「飲食・物販機能」を有する事例》 道の駅「柿の郷 くとやま」(和歌山県九度山町)		
	○	○	
	《「情報発信機能」と「交流機能」を有する事例》 石見銀山世界遺産センター(島根県大田市)		
		○	○
《「交流機能」と「飲食・物販機能」を有する事例》 アオーレ長岡(新潟県長岡市)			
		○	
《「飲食・物販機能」を有する事例》 水上公園 SHIP' S GARDEN(福岡県福岡市)			

(4) 県外参考事例における機能の整備状況と、施設利用状況

	主要機能								附帯機能		施設年間利用者数	
	情報発信			交流		飲食・物販			展望	広場の有無		その他参考機能
	土地の歴史	観光物産	世界遺産	多目的交流スペース	会議室	レストラン	カフェ	物販				
しいのき迎賓館 (石川県金沢市)	○	○		○	○	○	○	○		有	迎賓施設 ギャラリー	約46万人
かごしま県民交流センター (鹿児島県鹿児島市)	○			○	○	○	○		○	有	展示室 ギャラリー 文化ホール	約110万人
青森県観光物産館アスパム (青森県青森市)		○	○	○	○	○	○	○	○	有		約105万人
富岩運河環水公園 (富山県富山市)	○			○	○	○	○		○	有		約157万人
コラッセふくしま (福島県福島市)		○		○	○	○		○	○		展示室	約15万人 ※購買者数
浅草文化観光センター (東京都台東区)		○			○		○		○			約120万人
道の駅「柿の郷くどやま」 (和歌山県九度山町)		○	○				○	○		有		約97万人
石見銀山世界遺産センター (島根県大田市)			○	○	○							約11万人
アオーレ長岡 (新潟県長岡市)				○	○		○			有	アリーナ	約96万人 ※イベント来場者 ・ホール等利用者数
水上公園 SHIP'S GARDEN (福岡県福岡市)						○			○	有		-

※「情報発信」「交流」「飲食・物販」を主要機能、「展望」を主要機能に附帯する附帯機能として整理

※その他参考機能…表中に掲げる機能以外の参考機能について掲載

＜県外参考事例の施設における機能別の主な傾向・特徴＞

情報発信
交流
飲食・物販
その他(展望、外観)

- 情報発信機能については、歴史ある場所に整備されている施設は、その土地の歴史や変遷などについて発信し、訪問者が「知る・学ぶ」場を提供していた。また、年々増加している外国人観光客に対し、多言語対応のガイドやコンシェルジュを配置している施設も見受けられた。
- 交流機能については、多人数を集客しイベントなどが開催できる多目的交流スペース（100～300 m²程度の規模が多い）が整備されており、多種多様な企画イベントを開催するなど、賑わいを創出していた。特に、広場と交流機能を一体的に活用した催しや、観光・物産、世界遺産に関連するイベントの開催など、他の機能と連携した取り組みが実施されていた。さらに、研修会やワークショップなど、少人数でも日常的に利用できる会議室が併せて整備されているケースが多かった。
- 飲食機能については、他と違う特色を打ち出すことで集客を目指す施設は、比較的、質の高いレストランや、地域食材を活用したレストランなどがある一方、観光情報発信と物産販売を主目的とする施設は、カジュアルなタイプのレストランであった。また、広場に併設されている施設の多くは、広場への訪問者等が気軽に利用できるカフェを設置していた。
- 物販機能については、他との差別化を図るため、県内選りすぐりの伝統工芸品を揃え、商品（作品）を通して、歴史や県とのつながりなども紹介していた施設がある一方で、観光物産拠点施設は幅広い種類の品物を揃えていた。
- 展望機能については、高層の建物は、比較的、屋内に機能を設け、市街地などの眺望を見渡す施設であったが、低層の建物は、施設近隣の景観などを愉しむために視点場を屋外に設けるなど、立地や周辺環境によって機能に特徴が見られた。
- 各施設の建物については、それぞれのコンセプトに基づき、特色のある和風建築や洋風建築など、工夫を凝らしたデザインの施設が見受けられた。また、歴史のある建物を活用した施設は、格調の高い造りなどを施設の魅力としていた。

(5) 主要機能で考えられる主な利点と課題

	利 点	課 題
情報 発信 機能	<ul style="list-style-type: none"> ●国内外の観光客が、観光・物産、世界遺産の情報を得ることで、県内周遊や消費拡大につながる ●県庁舎跡地の歴史や世界遺産の情報を、県民が知り、理解する場を提供できる 	<ul style="list-style-type: none"> ●交流・おもてなしの空間として発信する情報の選別が必要 ●情報入手後、現地へ足を向けさせるための工夫が必要 ●情報発信の機能や手法の充実に比例して、整備・維持管理費用が増加する
交流 機能	<ul style="list-style-type: none"> ●屋内イベントを開催することで、県内外からの集客が期待できる ●県民が気軽に利用できる活動の場を提供できる 	<ul style="list-style-type: none"> ●広場と連携したイベントの企画、活用など、運営面での工夫が必要 ●整備する施設の規模に比例して、整備・維持管理費用が増加する
飲食 物販 機能	<ul style="list-style-type: none"> ●特色を打ち出した飲食・物販を提供することで、これらを求めて県内外から訪れる者が増加する ●カフェなどを提供することで、県民をはじめとする訪問者が気軽に利用し、寛ぐことができる ●地域の伝統工芸品など、県産品の周知拡大につながる 	<ul style="list-style-type: none"> ●安定的な運営（収益性）の確保 ●整備にあたり、話題性や独自性などの検討が必要

(6) 利用者像と施設の機能

			主要機能							附帯機能	
			情報発信			交 流		飲食・物販			展 望
			土地の 歴 史	観 光 物 産	世 界 遺 産	多目的 交流 スペース	会議室	レストラン	カフェ	物 販	
利用者 像	国内 外からの 観光客	国内 観光客	○	◎	◎	◎		◎	○	◎	○
		海外 観光客 (クルーズ船を含む)	○	◎	◎	○		◎	○	◎	○
		県 民	◎		○	◎	○	○	◎	○	○

◎: 特に必要と考えられる機能 ○: 必要と考えられる機能

なお、必要と考えられる交流・おもてなしの空間の各機能のうち、どの機能について整備を進めていくかについては、今後、基本構想の策定を行う中で詳細に検討していく必要があるが、機能の付加と比例して、費用が大きく増加する可能性がある。

交流・おもてなしの空間の魅力





3 個別機能の説明

整備する機能については、今後の議論を踏まえた上で更に検討を進める


《主要機能》 情報発信機能


土地の歴史	
岬の教会・奉行所・県庁舎など、国際交流の舞台となった県庁舎跡地の重層的な歴史について、この地から情報を発信する	
効果	<ul style="list-style-type: none"> ◆岬の教会、長崎奉行所西役所、海軍伝習所などの跡地の歴史や、歴代県庁舎などの情報を、長崎発祥の地から発信する ◆県民や観光客などに、跡地の歴史を知る場を提供する
課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆発信する情報の選別 ◆発信する情報の内容を踏まえた情報発信手法等の工夫
県外参考事例	<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>【かごしま県民交流センター 県政記念館 展示室】</p> <p>大正 14 年に建設されて以来、県政の中心、シンボルとして県民に親しまれてきた旧県庁舎本館の玄関部分を活用している県政記念館。館内では「県政のあゆみ」「県庁舎の変遷」「旧県庁舎本館の概要」について、パネル展示や映像などを用いて紹介している。</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・年間利用者数 約 110 万人（平成 28 年）※かごしま県民交流センター全体の利用者数 ・県政記念館年間入館者数 約 1 万人（平成 28 年）

観光・物産	
増加する国内外からの観光客を見据え、魅力ある長崎県の観光・物産情報を発信する	
効果	<ul style="list-style-type: none"> ◆観光・物産情報を発信することで、観光客の入れ込み数増加に繋がる ◆跡地の歴史や世界遺産など、他の情報と併せて発信することで、相乗効果を生み出す
課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆発信する情報の選別 ◆既設の観光物産情報機能との役割分担 ◆観光施設のある現地へ足を向けさせるための工夫
県外参考事例	<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>【青森県観光物産館アスパム 市町村ホール、青い森ホール】</p> <p>市町村ホールでは、青森県内の市町村に関する映像紹介や、青森県内の温泉地紹介コーナー、世界遺産白神山地の写真パネル展示などがある。</p> <p>また、青い森ホールでは、白神山地や弘前公園での日本一の桜まつり、青森ねぶた祭り、十和田湖・奥入瀬渓流など、青森の見所を大型映像システムを用いたパノラマ映画で紹介している。</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・年間利用者数 約 105 万人（平成 26 年） ※青森県観光物産館アスパム全体の利用者数

世界遺産	
県内各地に所在している世界遺産の情報を発信する	
効果	<ul style="list-style-type: none"> ◆世界遺産の価値を伝え、資産の保存のための意識醸成につながる ◆観光・物産や跡地の歴史など、他の情報と併せて発信することで、相乗効果を生み出す
課題	◆世界遺産のある現地へ足を向けさせるための工夫
県外参考事例	 <p>道の駅柿の郷くどやま 世界遺産情報センター</p> <p>【道の駅 柿の郷 くどやま 世界遺産情報センター】 施設内にある世界遺産情報センターでは、「世界遺産の町・九度山町」と「高野山」に関する観光情報を発信。パネル展示等を通じて九度山の歴史や高野山を学ぶことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間利用者数 約 97 万人（平成 28 年）※道の駅 柿の郷 くどやま全体の利用者数
	 <p>石見銀山世界遺産センター 展示室</p> <p>【石見銀山世界遺産センター 展示室】 遺跡が世界遺産に登録された価値や、遺跡総合調査の成果などテーマごとに施設が構成され、模型、映像、レプリカ、再現品を中心に展示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間利用者数 約 11 万人（平成 25 年）※石見銀山世界遺産センター全体の利用者数

交流機能

多目的交流スペース	
音楽や食のイベント、演劇、展示会など様々な活動や発表の場となる平土間の多目的交流スペース	
効果	<ul style="list-style-type: none"> ◆県民が気軽に利用しやすい活動スペースを提供する ◆広場や、交流・おもてなしの空間の他の機能と連携したイベントや催事に活用する
課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆施設利用を促進するための工夫 ◆近隣類似施設との棲み分けの整理
県外参考事例	 <p>【アオーレ長岡 市民交流ホールA】 各種発表会や演奏会などのイベントに利用される平土間のホール。ダンスやレクリエーションにも使用できるフローリング仕様で、電動式の可動席の機能もあるため、イベント会場の設営も容易。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積 約 310 m² ・年間稼働率 約 76%（平成 28 年）※稼働時間で算出。営利利用は有料 ・年間利用団体数 約 630 団体（平成 28 年）

会議室	
様々な用途に対応できる実用的な会議室	
効果	◆県民が気軽に利用しやすい活動スペースを提供する ◆イベント開催時の出演者控室など、多様な用途に対応した利活用を行う
課題	◆施設利用を促進するための工夫 ◆近隣類似施設との機能重複の整理
県外参考事例	 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <p>【しいのき迎賓館 会議室（セミナールーム）】 会議室内に、レール式の可動壁が整備されており、会議室を2分割した利用が可能。 利用内容や規模に応じた使い方をしている。</p> </div>
	<ul style="list-style-type: none"> ・面積 約 230 ㎡ ・年間稼働率 約 80%（平成 28 年） ・会議室年間利用者数 約 18,000 人（平成 28 年）

飲食・物販機能

レストラン	
歴史あるこの地に相応しい特色のあるレストラン	
効果	◆特色があり話題性の高いレストランを整備することで、観光客を中心とした集客拡大に繋がる
課題	◆話題性や独自性など、特色の打ち出し方の検討 ◆安定的な収益性の確保
県外参考事例	 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <p>【しいのき迎賓館 レストラン ジャルダン ポール・ボキューズ】 ミシュラン3つ星レストラン。 大正ロマン薫る旧知事室や旧副知事室を改装して、接客フロアや個室を提供。 この地を訪れる多くの観光客や要人のおもてなしの場となっている。 また、周辺施設と連携したブライダルを企画するなど、様々な趣向を凝らした取り組みも行っている。</p> </div>
	<ul style="list-style-type: none"> ・年間利用者数 約 4.2 万人 (平成 28 年) <p>※年間利用者数は同施設内で運営しているカフェとの合算 ※しいのき迎賓館全体入館者数の 10~15%をレストランが占めている</p>

カフェ	
オープンで気軽に利用できるカフェ	
効果	◆イベントや観光等で訪れた人々が、憩い寛ぐことができる飲食エリアを提供する
課題	◆安定的な収益性の確保
県外参考事例	 <p>【道の駅 柿の郷 くどやま ベーカリーカフェ パーシモン】 焼きたてパンや季節の果実を使ったアイスクリームやフレッシュジュースなどを販売。九度山名産の柿を原料にした「柿パン」など、九度山オリジナルのパンもそろえている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間利用者数 約97万人（平成28年）※道の駅 柿の郷 くどやま全体の利用者数 ・ベーカリー 約9.8万人（平成28年）

物販	
観光客等を対象とする県産品等のショップ	
効果	◆観光客をはじめとする施設利用者へ県産品等を販売する ◆施設の運営を収入面でサポートする
課題	◆利用者像を踏まえた商品選定の工夫 ◆安定的な収益性の確保
県外参考事例	 <p>【コラッセふくしま 観光物産館】 福島県の観光と物産情報の発信基地。県内各地の「こだわりの味・匠の技」である名産品の展示・販売、物産情報の提供、県内全域の観光情報の提供、また伝統工芸品の展示、実演販売等を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光物産館年間売上高 約4.2億円（平成27年） ・年間購買者数 約14万人（平成27年）

《附帯機能》

展望	
出島をはじめとする跡地周辺の景色を眺望できる展望機能	
効果	◆これまでまちなかにはなかった新たな眺望スポットとして出島や広場を望む視点場を確保する
課題	◆視点場の位置・配置の検討
県外参考事例	 <p>【水上公園 SHIP'S GARDEN 屋根上スペース】 中州に位置する水上公園の休養施設。屋根上スペースは、ステージや客席となるスペースをイメージしたランドスケープデザイン。眼前を流れる川を眺めながら、夕景・夜景を愉しむことができる。</p>

(参考資料) 県外参考事例の概要

<p>しいのき 迎賓館</p> <p>石川県 金沢市</p>		<p>大正3年以来、石川の歴史を刻み込んできた旧石川県庁舎を、平成22年4月に「しいのき迎賓館」として開業。</p> <p>正面は、堂形のシイノキと一体となった格調の高い外観や、歴史を感じさせる玄関ホールの雰囲気が残され、一方、裏側は、全面ガラス張りとなっており、新旧が融合したデザインとなっている。</p> <p>3階建ての館内には、周辺に所在する兼六園の総合案内やギャラリー、レストラン、会議室などがあり新たな賑わいと交流を生み出している。</p> <p>事業主体：石川県 整備費：約20億円／延床面積：約4,900㎡／構造：地上3階 主な機能：レストラン／カフェ／ショップ／レセプションルーム／ギャラリー／会議室</p>
<p>かごしま 県民交流 センター</p> <p>鹿児島県 鹿児島市</p>	 <p>※かごしま県民交流センター（上） ※県政記念館（下）</p>	<p>県民の自主的な活動を促進し、交流の場を提供するための5つの機能からなる複合施設（平成15年整備）。大小のホールや能舞台、多目的の研修室等、全部で29の貸室を有しており、様々な会議、コンサート、講演など、年間100万人以上の方々に利用されている。</p> <p>敷地内には、大正期におけるネオ・ルネッサンス様式の建築物である旧鹿児島県庁を改修・保存した県政記念館や、県民が気軽に訪れ、景観などを楽しみながら憩える空間である県政記念公園がある。</p> <p>事業主体：鹿児島県 整備費：約225億円／延床面積：約45,000㎡／構造：地上6階・地下2階 主な機能：県政記念館／多目的ホール／会議室／レストラン 文化ホール／放送大学学習センター／県市関係施設</p>
<p>青森県 観光物産館 アスパム</p> <p>青森県 青森市</p>		<p>青森港に面し、三角形の外観が特長の本施設は、青森県の産業・観光物産及び郷土芸能などを総合的に紹介し、県民はもちろん青森県を訪れる方々に、よりよく青森県を理解していただくための場「青森県の顔」として、昭和61年に建設された。当該施設は、(公社)青森県産業振興協会が整備し、(公社)青森権観光連盟が運営を行っている。</p> <p>事業主体：(公社)青森県産業振興協会 整備費：約54億円／延床面積：約14,000㎡／構造：地上15階 主な機能：観光物産館／会議室／レストラン／カフェ／展望台／ハローワーク</p>
<p>富岩運河 環水公園</p> <p>富山県 富山市</p>		<p>富山駅北地区の新都市拠点整備事業「とやま都市MIRA I計画」のシンボルゾーンとして水辺空間の豊かさを大切にしながら整備された面積9.7haの親水文化公園（平成9年整備）で、富山の自然と富岩運河の歴史を活かした空間となっている。</p> <p>広大な敷地に、交流施設や飲食施設、文化ホール、広場など様々な機能が集約されており、市民の憩いの場として広く利用されている。</p> <p>事業主体：富山県 整備費：約120億円／敷地面積：約97,000㎡／構造：複数建築物で構成 主な機能：多目的ホール／会議室／レストラン／カフェ／文化ホール／体育館 ／ホテル／県関係施設</p>

<p>コラッセ ふくしま</p> <p>福島県 福島市</p>	 <p>事業主体：福島県、福島市、 商工団体等</p> <p>整備費：約 96 億円／延床面積：約 21,000 m²／構 造：地上 12 階</p> <p>主な機能：観光物産館／多目的ホール／会議室／展望レストラン／展望ラウンジ 企画展示室／県市関係施設／県市関連団体施設</p>	<p>平成 15 年に整備された、JR 福島駅に近接する複合施設で、福島県の観光・物産情報の発信基地。施設内には、観光物産館、多目的ホールや貸会議室のほか、展望ラウンジ、レストランなどが設けられており、県内観光・物産に関するイベントが定期的開催されている。</p> <p>その他にも、県・市の行政機能や図書館が整備されており、「ふくしま」の新たな玄関口として、多くの方々が気軽に立ち寄れる、にぎわいと産業振興の新拠点を目指している</p>
<p>浅草 文化観光 センター</p> <p>東京都 台東区</p>	 <p>事業主体：東京都台東区</p> <p>整備費：約 16 億円／延床面積：約 2,200 m²／構 造：地上 8 階・地下 1 階</p> <p>主な機能：観光情報コーナー／多目的スペース／会議室／展望テラス ／展示スペース</p>	<p>平成 24 年、台東区の浅草寺・雷門前に整備された観光案内の拠点施設。</p> <p>「探せる・見せる・支える」をコンセプトに、台東区を訪れる多くの方々に役立つ情報・サービスを提供している。</p> <p>観光案内は、4 か国語（日本語、英語、中国語、韓国語）対応。</p> <p>8 階の展望テラスからは、東京スカイツリーや浅草のまちを一望することができる。</p>
<p>道の駅 柿の郷 くどやま</p> <p>和歌山県 九度山町</p>	 <p>事業主体：和歌山県九度山町</p> <p>整備費：約 6.5 億円／延床面積：約 1,300 m²／構 造：地上 1 階</p> <p>主な機能：世界遺産情報センター／情報コーナー／カフェ／農産物直売所</p>	<p>和歌山県東北部九度山町に位置し、世界遺産「高野山石道」「慈尊院」などのほか、「真田庵」など周辺には多くの歴史遺産がある。</p> <p>施設は、パネルやジオラマ等を展示する世界遺産情報センターや、観光情報等を提供する情報コーナー、和歌山県内で採れる農作物を販売する「農産物直売所」、カフェなどで構成されており、多くの人で賑わっている。（平成 26 年整備）</p>
<p>石見銀山 世界遺産 センター</p> <p>島根県 大田市</p>	 <p>事業主体：島根県大田市</p> <p>整備費：約 11 億円／延床面積：約 2,000 m²／構 造：地上 1 階（一部 2 階）</p> <p>主な機能：展示室／オリエンテーション室／多目的室／情報コーナー ガイダンスコーナー</p>	<p>日本海に面する島根県大田市にある「世界遺産石見銀山遺跡」の価値や魅力、全体像を分かりやすく紹介する拠点施設で、遺産のガイダンス（概要説明）機能を担っている。（平成 19 年整備）</p> <p>メインの展示室には、17 世紀初めの「吹屋」（製錬所）や、銀山最大級の坑道「大久保間歩（おおくぼまび）」の坑内などのさまざまな再現模型のほか、CG を駆使した映像や出土遺物など、多彩な展示物がある。</p>

<p>アオーレ 長岡</p> <p>新潟県 長岡市</p>	 <p>事業主体：新潟県長岡市 整備費：約 131 億円／延床面積：約 35,000 m²／構造：地上 4 階・地下 1 階 主な機能：市民交流ホール／会議室／カフェ／アリーナ／シアター／市役所庁舎</p>	<p>平成 24 年に整備された、JR 長岡駅に直結する複合公共施設。巨大な屋根付き広場である「ナカドマ」を中心に、5000 人を収容するアリーナ、市民交流スペース、そして長岡市役所庁舎が渾然一体に混じり合うまったく新しい公共空間。低層型で景観に配慮し、木の温もりとガラス張りの開放感がある建築物となっており、市民協働の交流の拠点として活用されている。</p>
<p>水上公園 SHIP'S GARDEN</p> <p>福岡県 福岡市</p>	 <p>事業主体：福岡県福岡市 整備費：約 3.6 億円／延床面積：約 630 m²／構造：地上 2 階 主な機能：レストラン／屋根上イベントスペース</p>	<p>国家戦略特区をトリガーとした福岡市のプロジェクトの主要事業の1つとして、公園と、敷地内に2つのレストランが入った休養施設を平成 28 年に整備。 那珂川と薬院新川の合流部の中州に所在し、水辺の気持ちよさや敷地形状を活かすため、屋根上部分を開放したデザインにし、公園全体を一体的に利用できる空間を形成。 レストランの1つは、ニューヨークタイムズ紙で「世界一の朝食」と称される看板メニューがあり、西日本エリア第 1 号店としてオープン、話題となった。</p>

※掲載している整備費、延床面積等の施設の諸元については、当該施設全体の内容であり、交流・おもてなしの空間の機能のみに関するものではない